

# 特別記事 ルネ・フレミングがミュンヘン夏の風物詩の野外コンサートに出演

## 特記 その経験に基づいた歌の戦略と集中力に脱帽

Report & Interview

取材・文 中東生  
Text Shinobu Nakai

アララン・ギルバート指揮  
バイエルン放送響と共に

今にも泣きべそをかきそうな空の下、ミュンヘンの夏の風物詩となつている野外コンサート会場のオテオン広場には、リハーサルを行う小さな歌声が響いていた。それから約1時間後、滝のような大雨に見舞われ、聴衆を待つプラスチックの靴のなかもビショ濡れになったが、帰る人は見当たらなかった。開演時間前には雨も上がり、清々しい空気のなか、バイエルン放送交響楽団の奏でるチャイコフスキー「エフゲニー・オネーギン」序曲」が温かく流れた。指揮を執るのはアララン・ギルバートで、屋外にもかかわらずメリハリの効いた雄弁な序曲が、ディーヴァの登場への期待をより膨ませる。

そこにベバミント・グリーンのだレスに身を包んだルネ・フレミングが登場すると、柱のライティングもドレスと同じ色に染まる。遠くの席でも認められる輝きを発しながら、同じく「エフゲニー・オネーギン」から、タチャーナの（あなたは手紙をくれました）（手紙の場）を歌った。柔らかに響く彼女の声が広場を

### Renée Fleming appeared on concert of summer features in Munich



相変わらずの歌唱を披露したフレミング(左)と指揮のギルバート(右) ©Symphonieorchester des Bayerischen Rundfunks

来年1月に来日するルネ・フレミング。今年の2月に還暦を迎えたが、その抜群の歌唱力は衰えず、いまだ健在のようだ。そのフレミングが7月、ミュンヘンで開催される恒例の野外コンサートに出演した。来日を半年後に控えたディーヴァの演奏会のもよごと、来日に向けた「メント」をご紹介しよう。

満たし、長丁場のシーンも飽きさせない歌唱に正直驚いた。音響を担当したチームの拡声技術も素晴らしいが、このただ広い広場に向かって、このロシア語の長いアリアを、アメリカ人である彼女が歌だけで演じるのは容易ではないはずだ。太く長いレガートを、巧みに節約した息でたっぷり歌う計算が見て取れ、彼女にとっても冒頭からの挑戦のようだ。そうして彼女は一曲目から勝利を手にし、聴衆の心を掴んだ。冒頭の主催者側の挨拶で「スーパーボウルでも歌ったフレミングは野外コンサートに慣れているので、雨模様の天気でも安心だ」と言っていたが、そんな経験に基づいた戦略とそれを実現させた集中力に脱帽した。

■公演情報  
ブラシド・ドミンゴ&ルネ・フレミング プレミアム・コンサート  
イン ジャパン 2020  
〈日時・会場〉2020年1月28日 19時・東京国際フォーラム  
ホールA/31日 19時・サントリーホール〈出演〉ブラシド・ド  
ミンゴ(Br)、ルネ・フレミング(S)〈曲目〉未定〈共演〉ユージ  
ン・コーン(指揮)、東フィル〈問合せ〉チケットスペース03-  
3234-9999

されたように、自分たちも楽しみながら英語のレパトリリーを披露した。バーンスタインがプロードウェイ・デビュを飾ったミュージカル《オン・ザ・タウン》から「3つのダンス・エピソード」を、スピード感が増したギルバートは自由になり、《ロンリー・タウン》でフレミングは、ミュージカルの発声にギリギリ近付けた歌いかたによって、アメリカを謳歌した。最後の「バ・ド・ドゥ」で聴衆を解きほぐした後は、フレミングの十八番、フロトウ《マルタ》(リッチモンドの市場)の《夏のなごりのばら》(庭の千草)で、フレミングのまったりとした柔らかな声を皆の心に沁み渡らせ、郷愁を誘った。最後はリチャード・ロジャース&オ

続いてコルンゴルト《カトリン》からも「手紙の場」を歌う。その温かな弱声を自由に駆使し、60歳を過ぎてもメトロポリタン

歌劇場の女王は健在だと証明した。この後からはギルバートもフレミングも挑戦から解放

スカー・ハマースティーンのミュージカル《回転木馬》から「人生一人ではない」で締めくくり、惜しまれながら休憩に入った。

靴の中の水たまりが気になり、休憩で降りたくなったが、後半のチャイコフスキー「交響曲第五番」は「残っていてよかった」と思わせる美しい演奏だった。屋外での演奏だということを忘れさせる集中力をもって、フォーカスの定まった楽想を展開させたオーケストラとギルバートに、聴衆は惜しみない拍手を送った。

### 来日ではドミンゴとの ジョイント・コンサート

終演後に舞台袖の特設楽屋前で、とうに着替を終わっていたフレミングと待ち合わせをし、数分だが言葉を交わすことができた。来年1月に日本で行われるブラシド・ドミンゴとのジョイント・コンサートについて聞くと、「まだ細かいことは決まっていないけど、ドミンゴと歌うのはいつでも楽しみだから、心配ないわ」と幸せそうな顔を見せた。「久しぶりの日本を楽しみにしています」との伝言を預かり、寒がっていた娘を庇いながら、終演後の舞台を愛おしそうに何度も見上げながら歩いていった(7月13日)。